

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

Asubar Joel Tacla

4年間のテニユアトラック期間を経て、今年度、私は正式に工学部のメンバーとなりました。現在、工学部のメンバーとして、私が最も力を入れていることの一つは、電気電子情報工学科学生への講義であり、今年度は3年生向け専門科目「電子デバイス」の講義を担当しました。言うまでもなく日本は電気電子産業が非常に発展しており、世界有数の電気電子産業大国です。外国人として日本で電子デバイスの講義を持つことは、とても名誉であると同時に重い責任も感じています。

私のような日本語が母国語ではない教員にとって、この科目を日本語で教えることは簡単ではないため、慎重に慎重に準備を重ね講義に臨みました。特に、私の日本語による説明を補足しつつ、学生の理解がさらに進むように、パワーポイントを利用した図による視覚的な講義の準備に時間を費やしました。また、単に専門知識を教授するのではなく、学生が自ら学ぶきっかけが得られるように意識しました。数式においては教科書に記載されている結果を単に提示するのではなく、全ての数式を可能な限り段階的に導出し、それらの物理的意味や背景について説明するように心がけました。アルベルト・アインシュタインは「**Never memorize something that you can look up: 調べれば分かることを暗記する必要はない**」と言っています。これは暗記に価値がないということではありませんが、高度情報化社会の現在、スマートフォンやPCを使えば、暗記しなくても数式を直ぐに調べることができます。学生に数式を暗記する努力をさせるよりも、背後にある物理や物理的意味への理解が進むように講義で心がけました。

ところで、私のお気に入りの物理の教科書の一つは、古典的な教科書とアプローチが異なる「**The Feynman Lecture in Physics: ファインマン物理学**」です。この本がきっかけで、リチャード・ファインマンの個性、キャラクターに興味を持ち、若い頃に「**Six-easy Pieces**」、「**Six Not-so-Easy Pieces**」、「**Surely You're Joking, Mr. Feynman!: ご冗談でしょうファインマンさん**」などファインマンの著作を読み漁りました。とても素晴らしいことに現代の情報化社会では、ファインマンの講義映像をweb上で観ることも出来ます。ファインマンの興味深く活気のある講義法を参考にし、私自身の講義スタイルを織り交ぜつつ、今後も講義法を改善できたらと常に思っています。また私の日本語能力には改善の余地、必要性があります。これからも福井大学の素晴らしい先生方の講義法や講義スタイルを勉強させて頂き、自身の講義の改善を続けたいと思っています。

自身の講義を通じて、私自身、学生から勉強できたことが多々あります。最後に今年度の講義を通して一緒に学んでくれてありがとうと、学生に感謝したいと思います。